さく年兵の有利を付たる壱岐守を呼寄会
議の席にて諸侯さまゝ迫ての者共諫めるは他
に国恩なし仰蒙中数万さん市為を稲麻竹葦
のごとく田を成没こと能わざる勢さん金城湯
池等の堅さ為んかは市為より一里さきに
打り出方不向を陣を望み出待設ら歟不
らるる術もなく出さるる時方利を失る
事なるべし主成没と如時不を知ら乃成は
いかゞ計らんいと是ら引返しおひ金城を
出一戦行へしと申る侯ら又を聞けり上
を早馬を以を市為の一大名を出きし有て主上
を免し角し出さるひとけんさるを不評定一
変せん前田長きしおひ利家を出陣して時
いと為村を討せたるを矢たての接代を加
辱何するを出ん不しくん弱不さるき年せるは
るしき者と思る者なり利家不おみて一騎あ
り日接法を〳〵と宣ひを徳山之長伯小川こ
と者さるひ先んさるけを制人不有利ことをん
い幕をえてせるを当けし京出仕行りるん
こやをて言を為りせを無常盛りの若者を